



寄って 話して 自ら気づく

「親の力」をまなびあう学習プログラム

くらべないで！

～同じ子どもなんて一人もいない～



イラスト：うじな かずひこ

小学校の生活にも少しずつ慣れ、まだまだ幼いと思っていた子どもの世界は、家族を超えて広がり、さまざまな経験をするようになります。だんだんと親の側から離れていくわが子の姿に寂しさを感じることもあるかもしれませんが、子どもの成長を喜び、自ら伸びようとしている芽をみつけてしっかり伸ばしてあげましょう。子どもにとって心安らぐ居場所になっているかどうか家庭をもう一度見つめ直し、子どもと一緒に親も成長していきたいものです。

考えましょう,出し合いましょう

小学3年生のミキちゃんは、算数が苦手でした。

今日、学校で算数のテストがあり、お母さんに見せています。ミキちゃんは…。

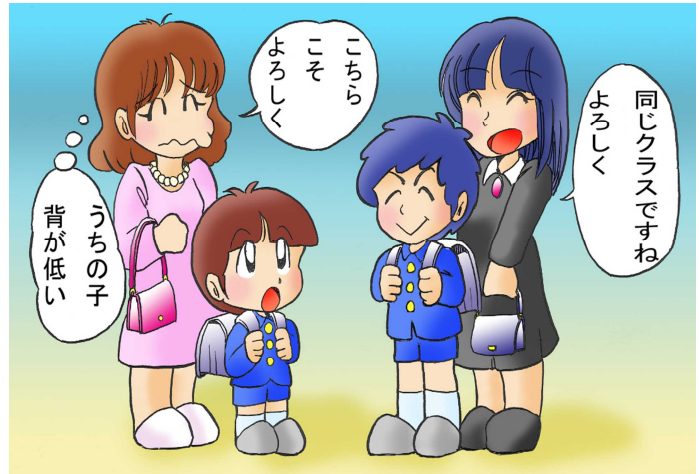


① 60点のテストを見て、あなたなら何と言うでしょうか。

② テストが98点なら、あなたなら何と言うでしょうか。

③ あなたが子どもだったとき、親から人と比べられて嫌だった体験、逆にうれしかった体験はありませんか。

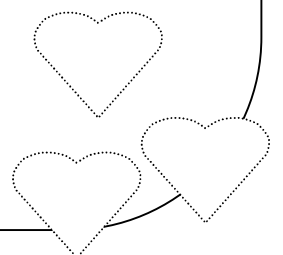
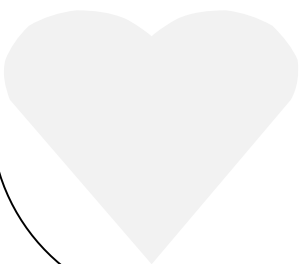
学力のほかにも…



ということもありそうです。

④ 苦手なところが好きになるほめ方を書いてみましょう。

伸びようとしている芽を
見つけてしっかり伸ばし
てあげましょう！



さらに考えましょう

● 同じ子どもなんて一人もいない

テストで何点とったか、どれだけ何々ができるかなどと、他の子どもや平均値との比較に目を奪われ、自分の期待から子どもの評価をすることは、子どもたち一人一人の個性や成長のために良くありません。そういう親の下では、子どもまで相対的な優位ばかりを気にするようになったり、自信をなくしたりしがちです。親は、比較して不安になるのではなく、どんなときも子どもの個性と成長を信じ、ゆっくりゆっくり育てたいものです。

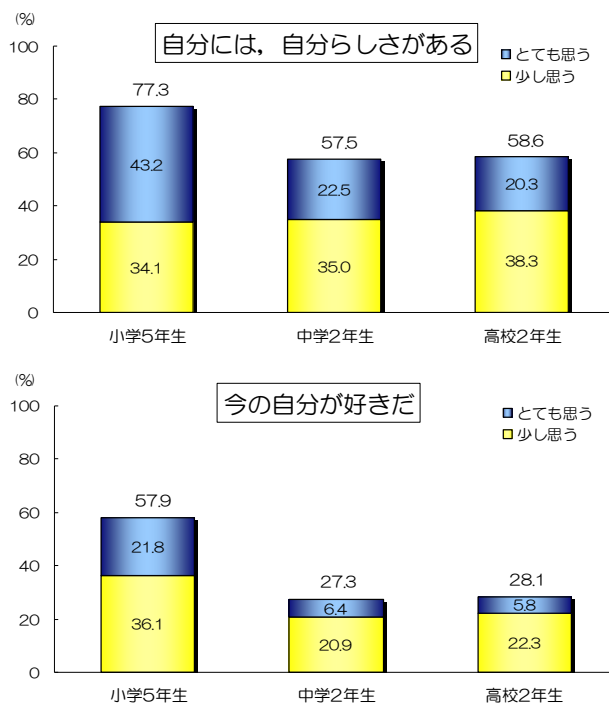
● ダメなところを責めるより、良いところを増やしていこう

子どもに大切なのは、自信と、自分を大切にできる力です。それは植物の根のようなもので、深く広く張るほど大きな実りをもたらします。表面的なことにとらわれることなく、その子が大きく育つことを信じて豊かな水や栄養を与えましょう。

そして、その水や栄養となるのが、子どもの良いところを見だし、ほめることです。叱るべきときは叱り、ほめるべきときはちゃんとほめる。一つ叱ったら三つほめるぐらいのバランスを心がけましょう。ほめられることで子どもは喜びを感じ、自信や自尊心を育てていくのです。

(家庭教育手帳 小学校(低学年～中学年)編 文部科学省より)

参考資料



独立行政法人国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」平成22年度調査報告書 より

『私と小鳥と鈴と』金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面(じべた)を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

出典：『金子みすゞ童謡全集』（JULA 出版局）

学習を振り返りましょう

自分の中で、分かったこと、考えが変わったことがあれば、書いてみましょう。

お問合せ：〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47 広島県立生涯学習センター

TEL：082-248-8848

FAX:082-248-8840

E-mail：